

平成 27 年度 中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会
第 1 回 人工島環境整備専門部会

淡水池の造成高に関する検討について

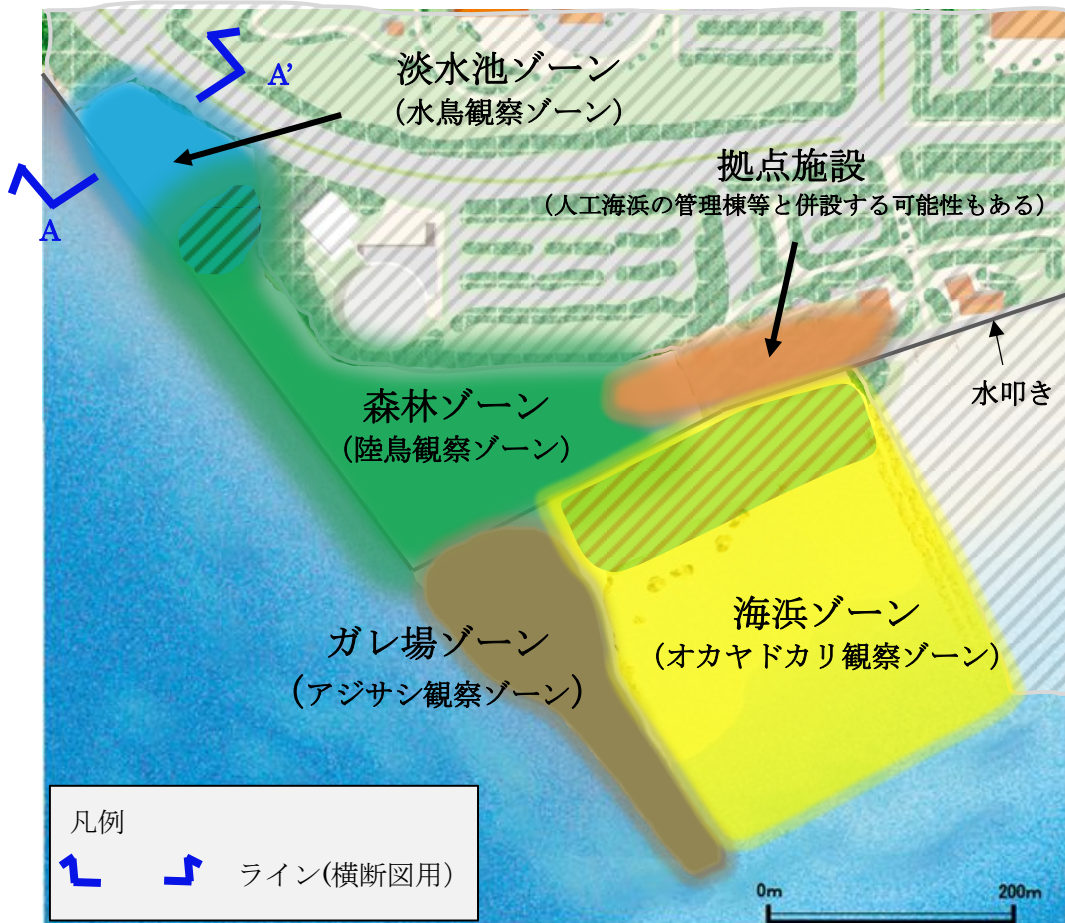
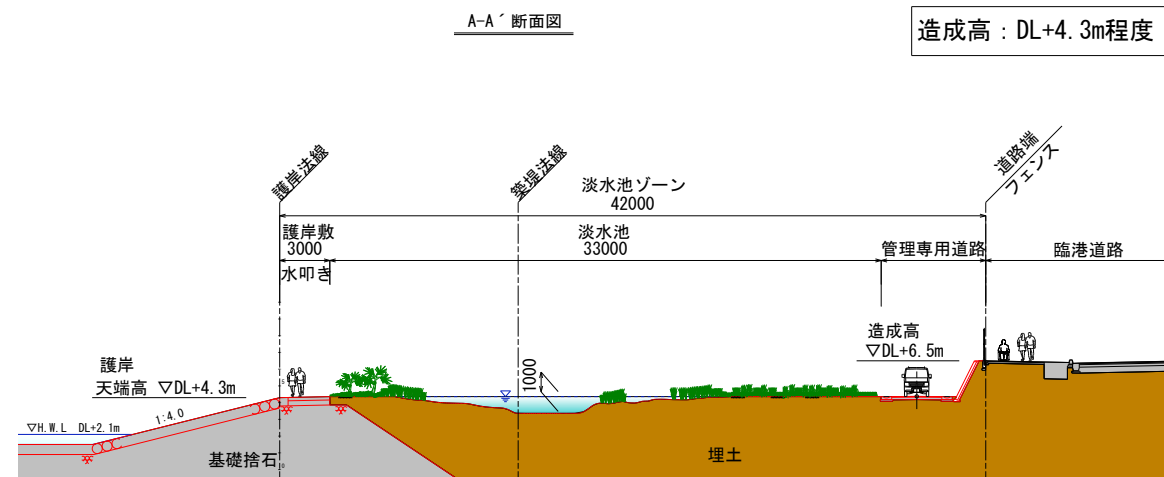


図 3.1 場の配置計画に関する平面図 (案)

図 3.1 のライン A-A 'について、淡水池の造成高に係る 3 つの案を検討した。

●案 1：淡水池および水叩きの造成高を揃えた場合（造成高：DL+4.3m 程度）



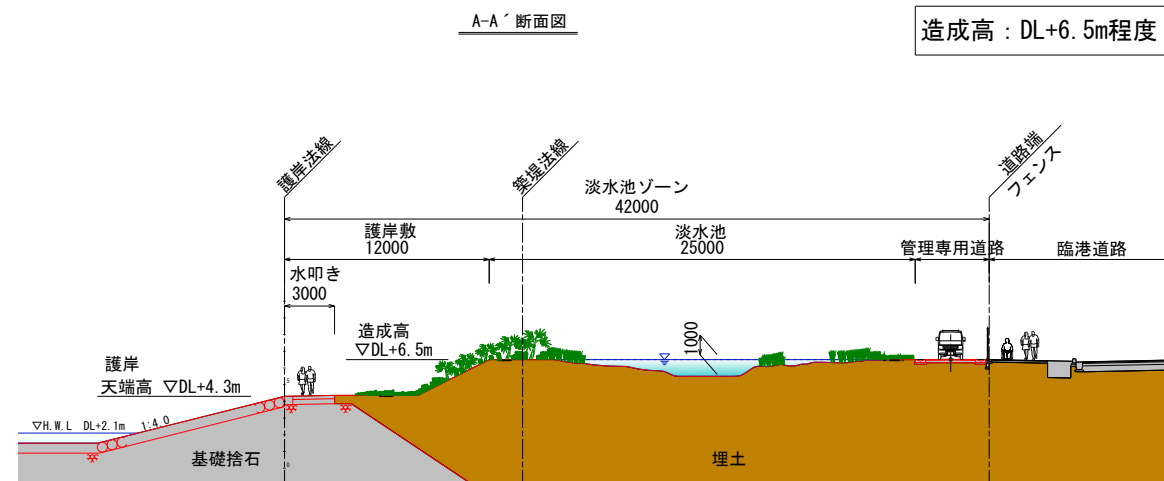
「特長」

- ・臨港道路よりも低地に淡水池を整備するため、道路等の雨水排水を自然流下により導きやすく、必要量を確保しやすい。
- ・淡水池と護岸が同じ高さであるため、水叩きを園路として活用しやすい。

「課題」

- ・他案と比べ、海水飛沫等の影響を受けやすい。

●案 2：淡水池および臨港道路の造成高を揃えた場合（造成高：DL+6.5m 程度）



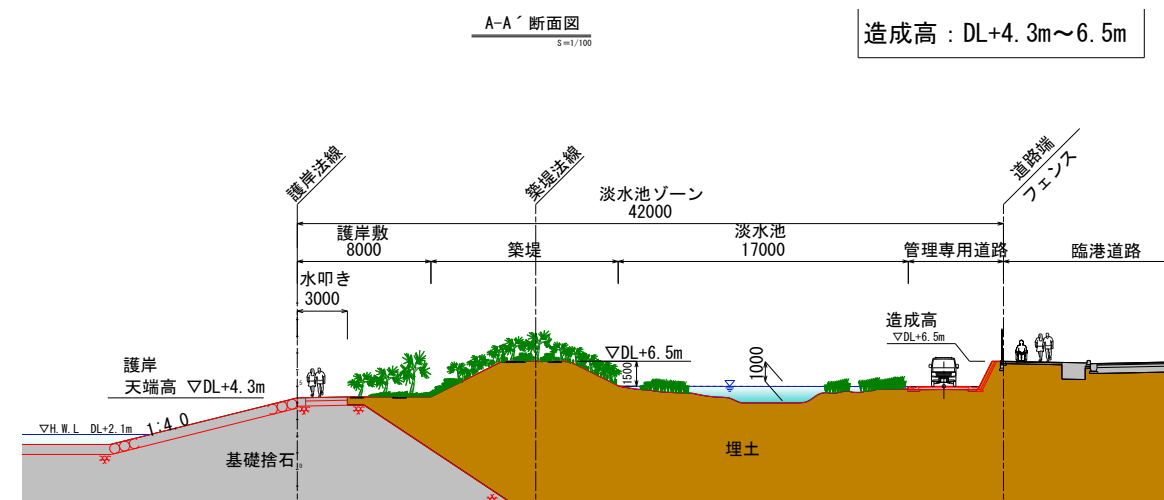
「特長」

- ・案 1 と比べ、海水飛沫等の影響を受けにくい。

「課題」

- ・淡水池と臨港道路の高低差が小さいため、道路等の雨水排水を自然流下により導くことが難しい。
- ・淡水池と護岸の高低差が大きいため、水叩き（園路）からの眺めが阻害される。
- ・水叩きが園路・管理用道路になるため、スロープ等を設置する必要がある。

●案 3：淡水池の造成高を水叩きと臨港道路の間にした場合（造成高：DL+4.3m～6.5m）



「特長」

- ・案 1 と比べ、海水飛沫等の影響を受けにくい。
- ・案 2 と比べ、道路等の雨水排水を自然流下により導きやすく、必要量を確保しやすい。

「課題」

- ・案 2 と比べ、築堤が存在するため、淡水池の用地幅が狭くなる。
- ・淡水池と護岸の間に築堤があるため、水叩き（園路）からの眺めが阻害される。
- ・水叩きが園路・管理用道路になるため、スロープ等を設置する必要がある。